



平和資料館 草の家 だより

No.106

2010年4月10日発行



草と草の根の連帯をあらわす
草の家のシンボルマーク

〒780-0861 高知市升形 9-11 Tel 088-875-1275 Fax 088-821-0586
E-mail: GRH@ma1.seikyoku.ne.jp <http://ha1.seikyoku.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori>

高知大空襲－戦争の中をいかに生きたか－

平和資料館・草の家 館長 岡村正弘

徳島県の小松島中学校から平和学習の講演依頼があり、平和資料館・草の家館長、高知大空襲の体験者としてお受けしました。一年生 250 名、教職員ほか 20 名が対象で 5・6 校時休み時間なしの 1 時間 40 分の持ち時間で表記の演題でありました。

1 月 29 日、いつもの様に、「僕が見た高知大空襲」の紙芝居、飯合、水筒、焼夷弾、防空頭巾、銃剣、^{はいのう}背囊、鉄兜、日の丸などの資料を車に積みこんで、妻の花子さんと徳島まで一泊二日の小旅行となりました。高速には運転が慣れていないので、安全運転で行きました。

広い体育館で、約 300 人を前に花子さんと二人で 90 分の講演をおこないました。一人ではとても出来ませんがアシスタントがいるので安心です。原稿なしで、思いつくまま、土佐弁で話しました。

最初に草の家について、「草は、大地にしっかり強く根を張って生きている様に、地域の人々にしっかり根ざした活動をする意味でつけた名前です」と説明しました。草の家の生い立ち、15 年戦争を加害、被害、抵抗の三面から話しました。草の家は、三面を調査、研究して資料を集め、本や展示品などにして、平和学習に生かしています。

私自身のことについて、幼少の頃から、中学一年生までを語りました。幼稚園で習ったことを、家で近所のおばさんと呼んで、人前で発表する元気な子どもの頃のこと、高知大空襲のこと、家を焼かれ、母と妹を殺され、半年も経たないうちに父が再婚し、新しいお母さんに馴染めなくて困ったこと、南海地震の体験、父の病死、小学生から中学一年生の頃までの自分を語りました。

最後に、「今を大切に、豊かな青春を生きるように」を贈る言葉としました。



講演にひきつづいて、先生方と 1 時間研修をしました。一人ひとりが感想をのべ、質問もありました。大変熱心であることに感心しました。

後日、生徒の感想文が届きました。「戦争の恐ろしさが良く分かった」、「空襲でお母さんと妹を亡くして悲しいだろう」、「中国で日本軍が残酷なことをしたことをひどいと思う」、「命をうばわれても、牢屋に入れられても、戦争に反対する人がいたんだなと思いました。その人は、自分の意思

を持っていてすごいとおもいました」、「今を大切に、一日一日を大切に生きる」、「豊かな青春を生きたい」などの感想がありました。

私の話が誰かの胸にどこか響いて受け止められていることに感動しました。

県外での講演はこれが初めてでした。生徒の間で土佐弁がはやっただろうとほくそ笑んでいます。



1/29(金) 小松島中学校の先生方との研修会にて

【生徒の感想文・その他一部紹介】 ※文章はそのまま抜き出しています

相手の国のことばかりに怒りをもっていました。相手の国も日本と同じように罪のないたくさんの方が亡くなったということがわかりました。

岡村さんの話を聞いて戦争をしても結局残る物は何もなくて残るのは、戦争の時のひさんな思いだけだと思いました。

罪のない人々を巻きこんでいく戦争が一日でも早くこの世界から消えればいいと今日の講演を聞いて思いました。

日本軍はなんの罪もない人をぎゃく殺していたことは今も中国などから知られていることがわかります。そんなことしていなかったら今は世界の人と仲良くなっていたと思います。

**自分はとても幸せにくらしているんだなあ
ということであらためて感じました。**

私は四国それぞれが空襲を受けていたことを知りませんでした。少し関心がうすいことを実感しました。もう少し戦争のことを調べて、未来へいかせるようにしたいです。

